

◆新技術定着試験事業

モズク養殖関連巡回指導

水産海洋技術センター 牧野清人

1. 目的

沖縄県における養殖モズクの生産量は年間で10,000t～20,000tの間で推移しているが、母藻の確保や天候不良等の環境的要因により、安定的な生産が出来ない状況にある。26年度は本島中南部地区オキナワモズク養殖業者を対象として、現場視察するとともに、モズク種保存及び培養技術および養殖網への種付けについて各産地にて指導を行った。

2. 内容

以下のモズク養殖業者を訪問し、沖縄モズク種の培養、種付け等について巡回指導を行った。

1) 与那城町漁協

センターより配布した有用品種株(C株、K株)を拡大、種付け用として準備していた。種付けは11月4日に開始しており、天然の母藻(シート付け)と培養種を併用していた。顕微鏡観察により、種付けのタイミングについて指導した。



2) 勝連漁協

勝連漁協比嘉支部(兼久)では天然母藻(シート付け)での種付けを開始しており、種付け時の肥料の投入について網に十分種が着いたこ

とが確認できたら盤状体の生育を促すために肥料を投入することを薦めた。また、培養種による種付け時期について、常時種を出しているので潮のタイミングを気にする必要はないと説明した。



3) 知念漁協

奥武島、志喜屋のモズク種付け施設にて、状況視察を行った。9グループがシート採苗を行っており、1グループで培養種を使用している。種付けに関しては問題なく出来ている。志喜屋では、旧盆明けよりシート採苗を開始している。母藻確保について、シート上のモズクは十分に種が取れるほどの生え具合であった。培養種を使用している業者もあったが、天然母藻との併用であった。

志喜屋モズク加工施設に赴き、モズク種培養を予定している施設を視察し、現場案内していただいた知念漁協販売・加工担当者と養殖業者2名に、モズク種培養に関する簡易マニュアルを配布し、設置する器具や資材等について助言した。また、センター研究員の試験に際し、シート母藻培養について確認した。



5) 糸満漁協

喜屋武地先にて養殖業者に対してオキナワモズク有用株（K株、C株混合）を母藻育成用として配布し、その経過について観察を行い、種付きの状態を見計らって沖出ししていただいた。



4) 読谷村漁協

漁協組合員に対し、培養種拡大について指導した。同組合員は数年前に県から配布された培養種を漁協敷地内の恒温室に保存し、継続して種付けに使用してきたが、再度新しい培養種を使用したいとの要望があり、有用品種（K株）の提供に加え、拡大、培養方法について指導した。



6) 座間味漁協

モズク種付け状況の確認と培養種の静置保存方法について指導した。座間味村では天然母藻の確保が困難な環境にあるため、これまでの普及指導を元に、培養種を保存、拡大し種付けしている。種付けに際しては均等に種が着くよう定期的に網を返し、確認板を観察しながら行うことを指導した。



て島影になる場所を中心に岩礁の有無、水深、底質、藻場の状況等を考慮し現場確認したところ、島の東側に位置する東浜付近とその南東側沖合、島の西側の入り江付近において苗床もしくは本張り場として可能性がある由を伝えた。



7) 久米島漁協

4月の収穫時期に養殖業者に現場を案内していただき、生育状況について観察した。特に問題なく、良好であることを確認した。



8) 渡名喜村

漁協および村役場からの依頼を受け、モズク養殖適地調査を行った。島の周辺で北風に対し